

Vol. 144 2016.12.9

理事長トーク Top Interview

2016年を振り返って

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男



師走に入り、2016年も残りわずかとなりました。
今回の理事長トークでは、幾つかの視点から、今年の振り返りをしたいと思います。

1. 新病院/施設開院にむけて、準備が着実に進んでいます

来春には、東京都練馬区大泉学園に「ねりま健育会病院・介護老人保健施設ライフサポートねりま」が、また秋には、神奈川県藤沢市・慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスに「湘南慶育病院」が開院予定です。

※平成28年12月6日「(仮称)湘南藤沢記念病院」の正式名称が「湘南慶育病院」に決定しました。

ねりま健育会病院・介護老人保健施設ライフサポートねりま

建物の外観ができ、現在、春の開院・開所に向けて内装に取り掛かっています。開設準備室では、人材募集を積極的に行くと同時に、メンバーが学会や研修会に出席するなどし、あるべき病院・施設づくりに向けて精力的に学習・活動をすすめています。



湘南慶育病院

建築工事は現在予定通り進んでいます。10月19日には、私も現地に直接足を運び、建設状況を確認してまいりました。鉄骨が組み上がり、少しずつ病院の建物のイメージ出来るようになってきました。開設準備室では、オープニングスタッフ募集のため、大学や専門学校を訪問するなどの人材募集の活動を積極的に行っています。



2. 理念共有プロジェクトの状況

—昨年より始まった理念共有プロジェクトは、病院・施設の将来像をより具体的に職員全員が同じイメージをもてるようにする「病院・施設理念の実現時の映像化」が、健育会グループの中核を担う7病院・1クリニック・7施設・1介護事業所で終わり、現在、今年最後の撮影となるココタウン訪問看護ステーションの準備が進んでいます。

各病院・施設では活発なディスカッションを経て映像のシナリオ作成を行い、職員が出演して撮影することで、「職員同士の団結力が増した」「目指すべき姿がよりはっきりした」などの声が現場からあがっており、とても嬉しく思います。また今まで、理念への関心が薄かった方たちに対しても、映像を見ることで病院・施設が目指していることを共有できたのではないかと感じています。

どの映像においても病院・施設理念を実現するために各々の職員がどうあるべきかということが明確になっていると思います。映像をビジョン達成までの道標として欲しいと考えています。



3. 介護施設へのアメーバ経営の導入

健育会グループでは、介護施設に京セラ創業者 稲盛和夫氏が作り出した「アメーバ経営」を導入することとし、まずはケアポート板橋、喬成会在宅事業部、ケアセンターけやきに9月（8月実績分）から段階的に導入しており、現在は、京セラコミュニケーションシステム社や本部から人を適宜派遣し、現場での本格的運用をサポートしています。

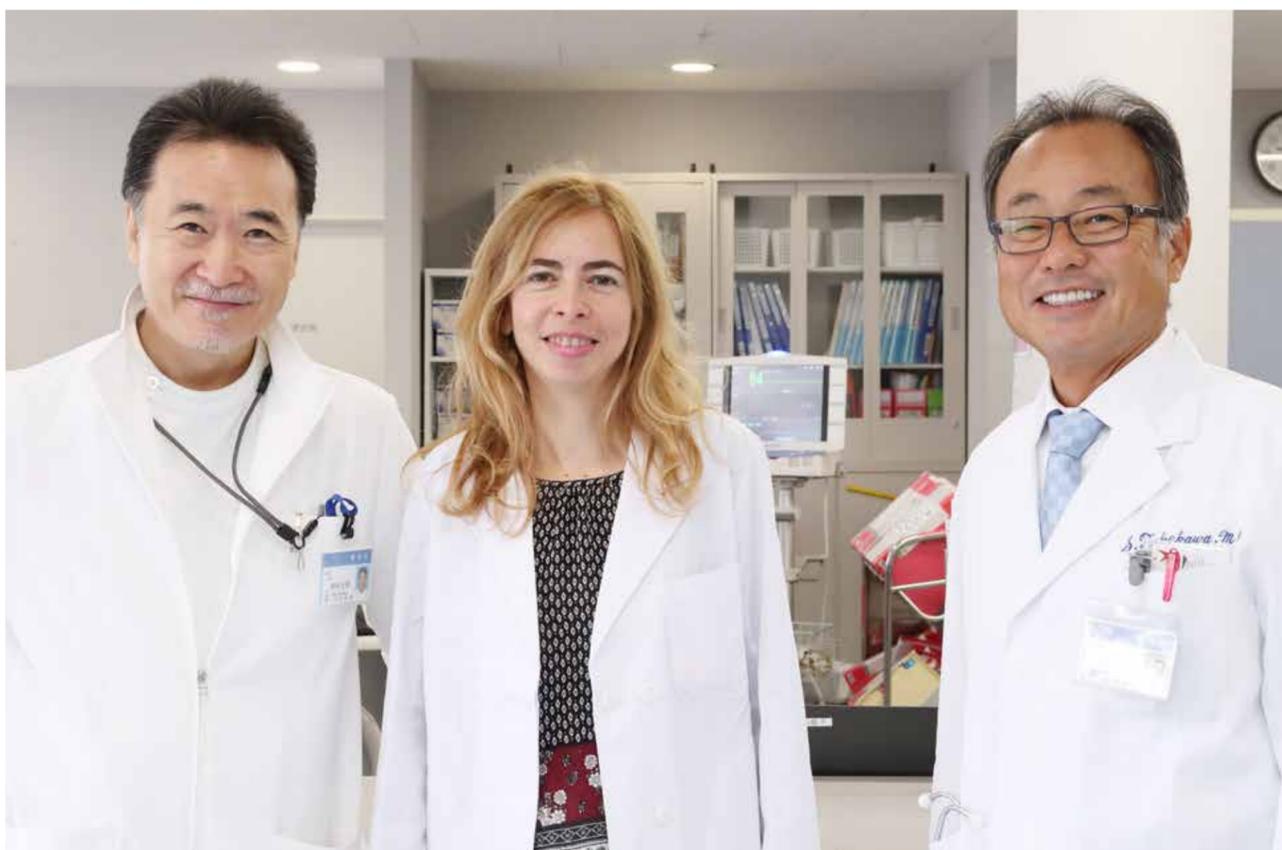
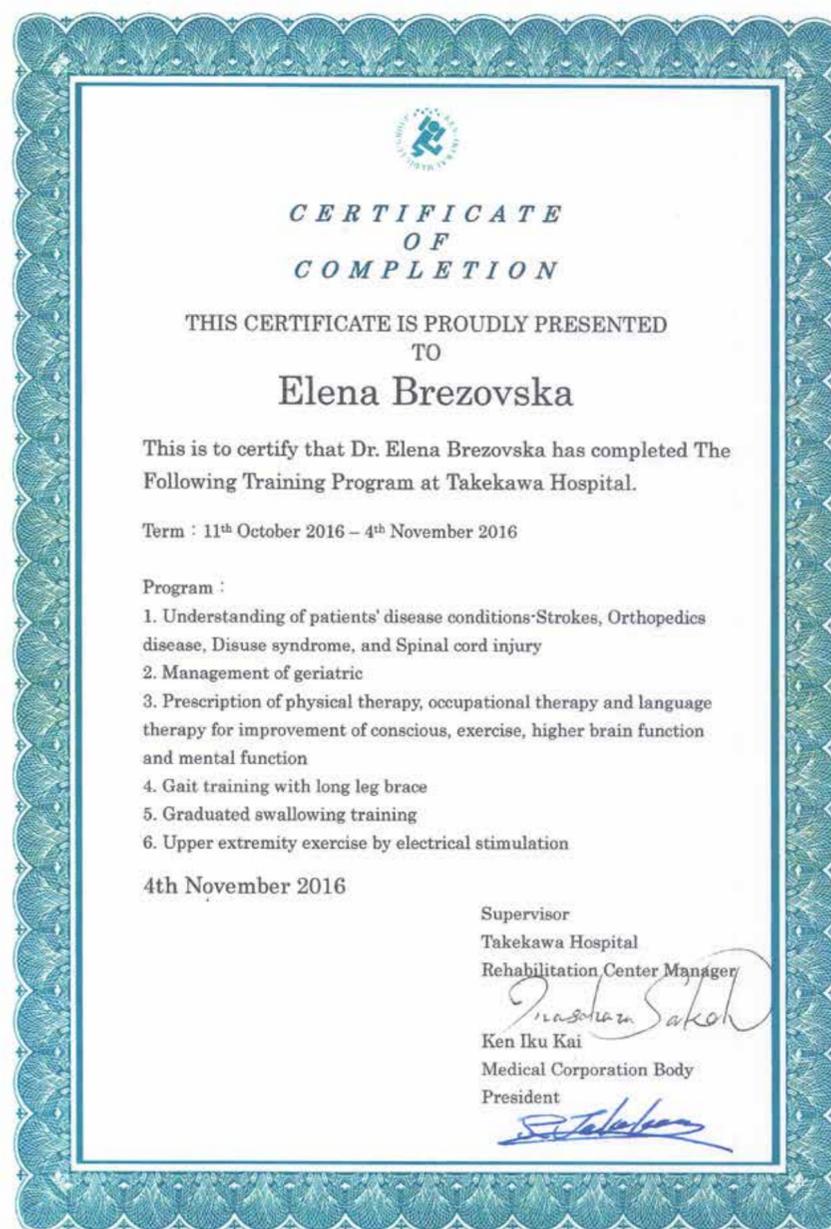
昨年の介護報酬改定において介護報酬単価が大幅な引き下げとなり、介護事業の経営環境はますます厳しくなっています。そのような中、部門別採算管理を行うことで、今まで採算をあまり意識せずに判断し行動していたことを意識化・明確化することで職員の「自立」を促し、そして「自立」した職員がより素晴らしいサービスを提供することで、ご利用者に「輝きの1日」を提供していくことに繋がると考えています。来年は、全介護施設にアメーバ経営を展開していきたいと考えています。



4. マケドニア共和国との連携協定

2016年9月にマケドニア共和国・健育会 研修協力に関する連携協定を締結し、10月11日から1ヶ月間、マケドニア共和国の研究所に勤務されているリハビリテーション専門医エレナ・プレゾヴスカ医師が来日し、竹川病院にて研修が行われました。研修期間中は、竹川病院 回復期リハビリテーションセンター長の酒向先生が直接指導し、有意義な研修が行われたとのことです。また、エレナ医師は日本の文化や食にも興味を示され、そのような意味でも交流が進んだとのことでした。

連携協定では、今後の医療協力体制を念頭に置きつつ、今回のような医師に特化した研修プログラムはもちろんのこと、医療経験と知識の交流を図るものなど、様々な協力関係を築いていくことが盛り込まれています。今回の医師の研修を機会に、医療介護分野においてマケドニア共和国とさらなる協力関係を築いていくことができると願っています。



5. 外部学会における発表演題数の増加

健育会グループでは年間を通して研究や勉強会が積極的に行われており、グループ内でもセミナーを開催し、活発な議論が行われています。一番歴史のある研修会は、「チーム医療症例検討会」で今年11回目の開催となりました。回を重ねるごとに発表内容のレベルが上がってきており、大変頼もしく思っていました。

そのような中、今年は外部の学会での発表が増加し、昨年比約1.7倍の122演題を発表することができました。特に、竹川病院、花川病院のリハ部門の発表が増加し、石川島記念病院では医師の発表が増加しました。日々の忙しい業務で限られた時間の中、これだけ沢山の学会で演題を発表したことは、素晴らしいことです。

■ 学会発表演題 実績 (2016年1月～11月)

施設名	医局	看護部門	リハ部門	コメディカル部門	介護部門	事務部門	合計
竹川病院	0	3	33	0	0	0	36
熱川温泉病院	0	3	12	0	0	0	15
西伊豆健育会病院	3	2	0	0	0	0	5
石巻健育会病院	0	5	9	0	0	0	14
いわき湯本病院	0	4	2	0	0	0	6
花川病院	0	5	15	0	0	0	20
石川島記念病院	7	0	1	1	0	0	9
茅ヶ崎セントラルクリニック	0	1	0	1	0	0	2
介護老人保健施設 しおさい	0	1	0	0	0	0	1
介護老人保健施設 しおん	0	0	0	0	0	0	0
介護老人保健施設 オアシス21	0	1	1	0	4	0	6
介護老人保健施設 ライフサポートひなた	0	0	2	0	0	0	2
ひまわり在宅サポートグループ	0	0	0	0	0	0	0
特別養護老人ホーム ケアポート板橋	0	0	0	0	1	2	3
ケアセンターけやき	0	0	2	0	0	0	2
ライフケアガーデン熱川	0	0	0	0	1	0	1
ライフケアガーデン湘南	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	25	77	2	6	2	122

また学会等で表彰を受けたという、嬉しいニュースも2つ届きました。

第15回北海道病院学会 学会優秀賞

病院名：花川病院

演題名：回復期リハビリテーション病棟の歩行自立の基準の検討



第18回フォーラム 「医療の改善活動」全国大会IN倉敷

病院名：石巻健育会病院 えんじん+ (プラス)

演題名：最終与薬場面における確認手順の定着を目指して



学会発表を積み重ねていくことで、患者さん・ご利用者から学んだことを、病院/施設として患者さんや利用者さん、また社会に還元し、医療・介護の発展に貢献していくという文化ができてきていると思います。研究は必ず日常業務の質の向上に結びつきます。これからもさらにグループで研究活動に取り組み切磋琢磨することで、この良い文化を定着させていければと考えています。



2017年は、新しい病院・施設の開院もあり、健育会グループとしてさらに飛躍の一年になると思います。さらにグループでの結束を強め、前進してゆければと考えています。